

2017年3月期 第1四半期電話会議における質疑応答の概要

(2016年8月2日(火)、東京)

【加工食品】

Q. 1Qの営業利益が前期比で28億円の増益となっているが、主な内容を教えて欲しい。

A. 1Qでは精緻に増減要因分析を行っていないため、具体的な数値に関してはご容赦願いたい。

凡そのイメージとしては、増収効果・生産効率の向上と、海外関係会社の業績改善が大きな要因。次が輸入牛肉や国産鶏肉などの原材料・仕入れコスト減。前期1Qに実施したテレビCM費用が今期1Qで発生しなかったこともプラス要因。それ以外に、円高による原材料・仕入れコスト減の効果が若干ある。

Q. 関係会社（GFPTニチレイを除く）の業績影響額に関し、通期で4億円の減益を見込んでいるが、1Qで計画より業績が上振れて進捗している背景を教えて欲しい。

A. 期初の時点ではタイのスラボンニチレイ食品の業績が前期より悪化すると見ていたが、1Qでは同社の業績が好調だった。元々1Qは生産数量があまり伸びない時期であるが、今期は日本向けの引き合いが強大きく伸長した。また、チキン加工品の原料となるモモ肉の現地での調達価格が上がると期初時点で見えていたが、1Qは想定よりもその影響が小さかった。

Q. 1Qで営業利益が大きく伸長した。施策面での取り組みの成果について教えて欲しい。

A. 前中計で米飯類のライン増設など、国内生産体制強化の取り組みを行ってきた。その結果、1Qで米飯類の販売数量の増加、それに伴う生産効率の向上を実現できた。前中計で取り組んだ施策の効果が1Qに現れてきたと捉えている。

【低温物流】

Q. 期初の計画と比べて、作業委託コストや電力料の見通しにおいて変化があれば教えて欲しい。

A. 電力料は通期で1億円のコスト増を見ていたが、1Qでは若干のコスト減になっている。要因としては、再生可能エネルギー発電促進賦課金単価が上昇する一方で、燃料費調整単価の下落に伴うプラス効果がそれを上回って寄与していることが大きい。但し、2Q以降は前期比較において燃料費調整単価の下落によるプラス効果が縮小していくと見ており、現時点において期初の計画から変更はない。

荷役に係る作業委託コストについては、1Qにおいてもややコスト増になっている。通期で1億円のコスト増の期初計画にほぼ沿って進捗している印象である。

以 上

※当文書は電話会議当日の質疑応答内容をすべて記録したのではなく、株式会社ニチレイが編集を加えております。